建屋周辺の地下水位、汚染水発生の状況



2022年10月27日

東京電力ホールディングス株式会社

日	一次	TEPCO
	1. 建屋周辺の地下水位、サブドレン等のくみ上げ量について	P 2∼3
	2. 汚染水発生量の状況について	P4

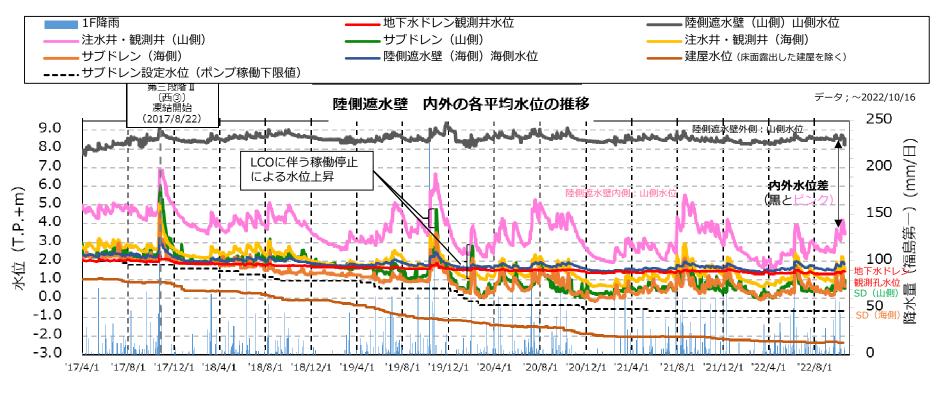
参考資料

P5~19

1-1.建屋周辺の地下水位の状況



- 陸側遮水壁内側エリアの地下水位は山側では降雨による変動があるものの、内外水位差は確保した状態が維持されている。
- 地下水ドレン観測井水位は約T.P.+1.4mであり、地表面から十分に下回っている(地表面高さ T.P.+2.5m)。

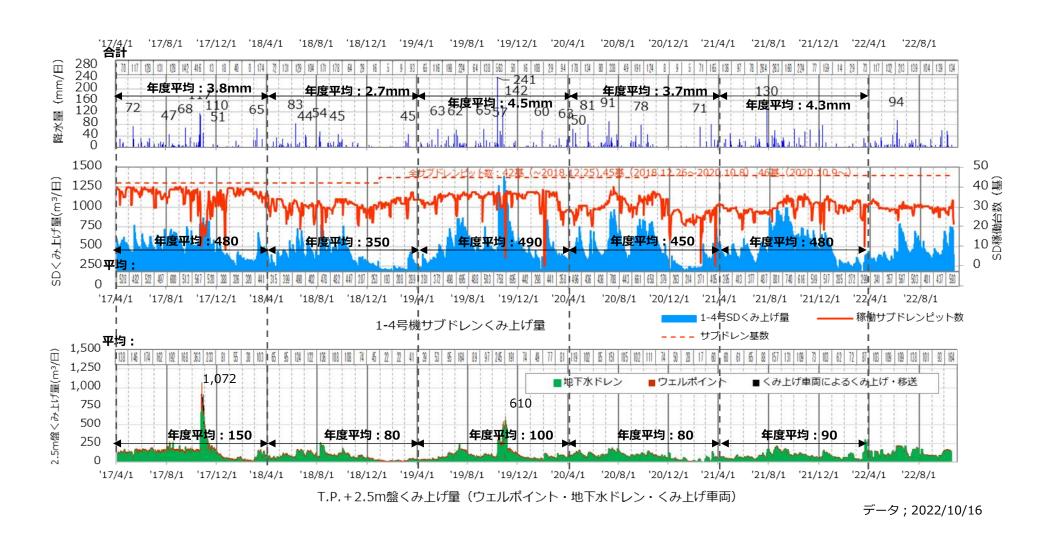




1-2.サブドレン・護岸エリアのくみ上げ量の推移



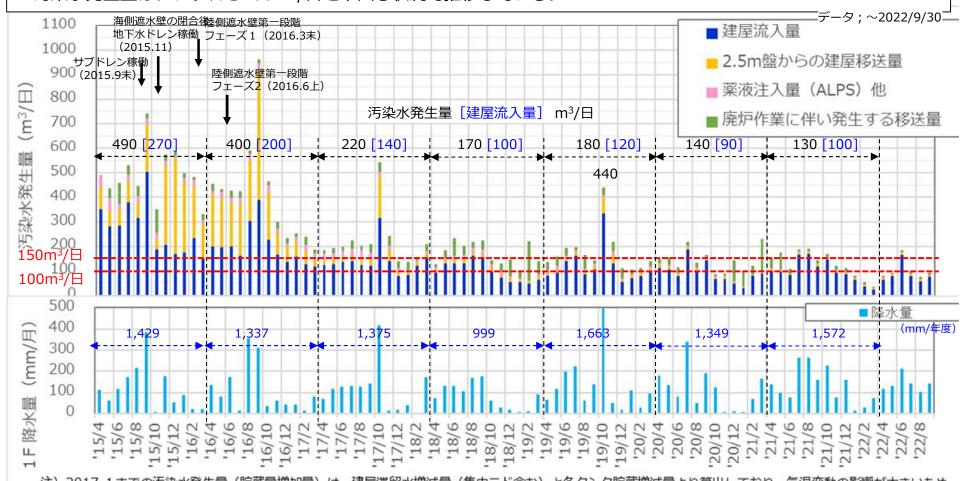
- ■1-4号機サブドレンは、降水量に応じて、くみ上げ量が変動している状況である。
- ■T.P.+2.5m盤くみ上げ量は、T.P.+2.5m盤エリアのフェーシングが完了しており、安定的なくみ上げ量で推移している状況である。



2-1.汚染水発生量の推移



- 2021年度は、降水量が1,572mm(2020年度:1,349mm)であり、平年降水量(1,473mm)よりも多い状況ではあるが、汚染水発生量は約130m³/日であった。
- 2022年度は、6月の降水量(213mm)による建屋流入量の増加に伴う汚染水発生量の増加が確認されたが、 7月以降は降水量は平年より少なく、建屋流入量は7月:約80m³/日、8月:約60m³/日、9月:約80m³/日であり、 汚染水発生量は、いずれも100m³/日を下回る状況で推移している。

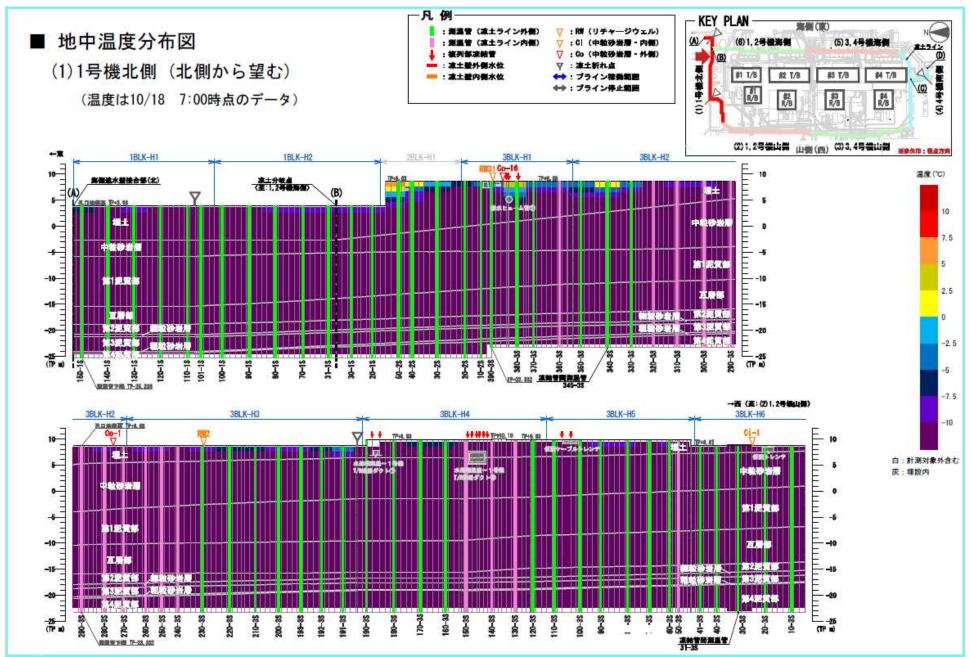


注)2017.1までの汚染水発生量(貯蔵量増加量)は、建屋滞留水増減量(集中ラド含む)と各タンク貯蔵増減量より算出しており、気温変動の影響が大きいため、2017.2以降は上表の凡例に示す発生量の内訳を積み上げて算出する方法に見直している。よって、2017.1までの発生量の内訳は参考値である。

【参考】地中温度分布および 地下水位・水頭の状況について

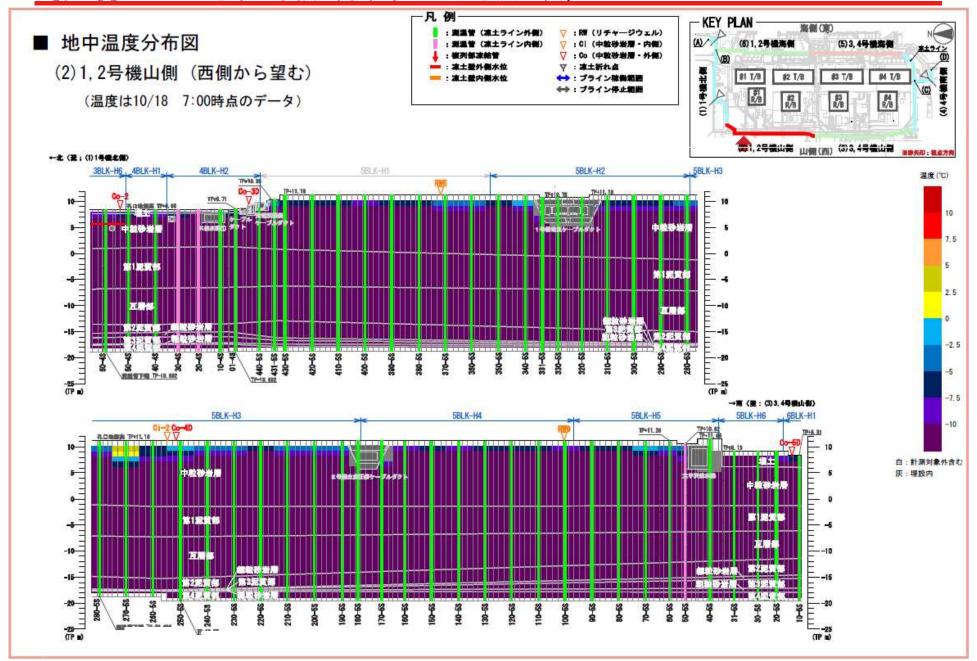
【参考】1-1 地中温度分布図(1号機北側)





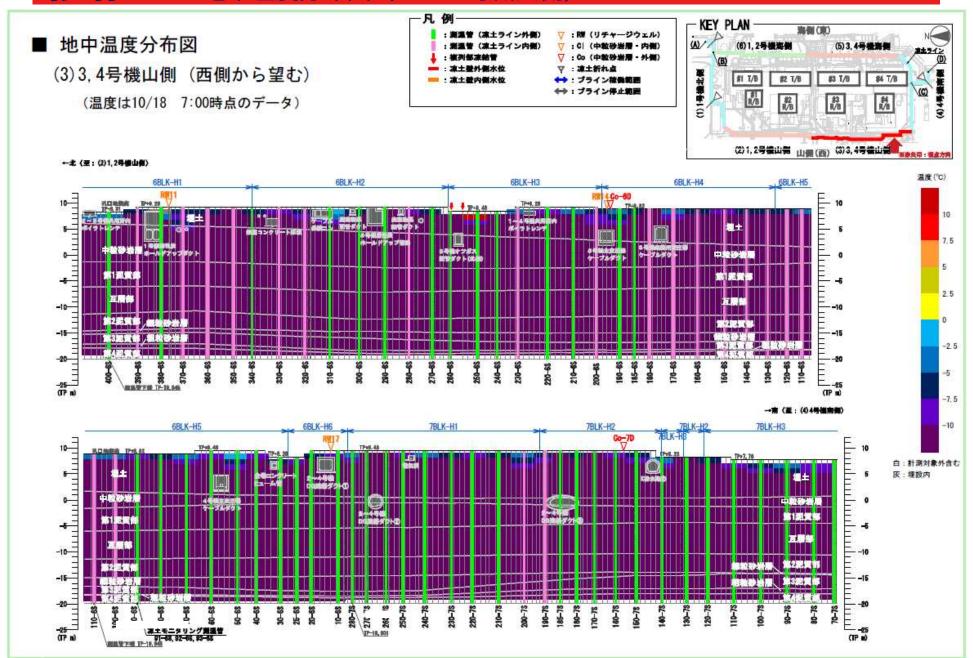
【参考】 1-2 地中温度分布図(1・2号機西側)





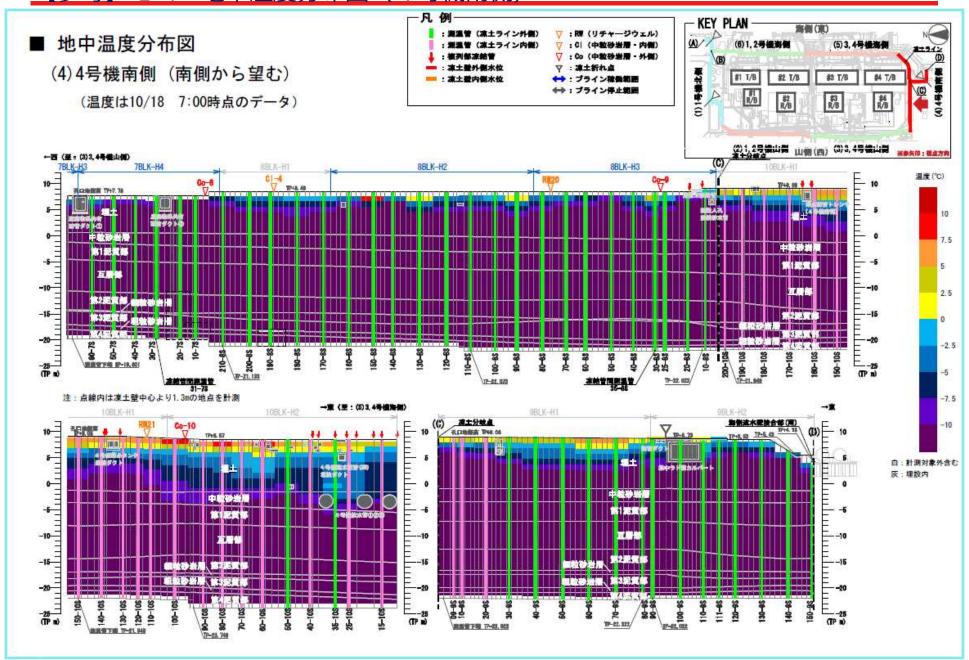
【参考】 1-3 地中温度分布図(3・4号機西側)





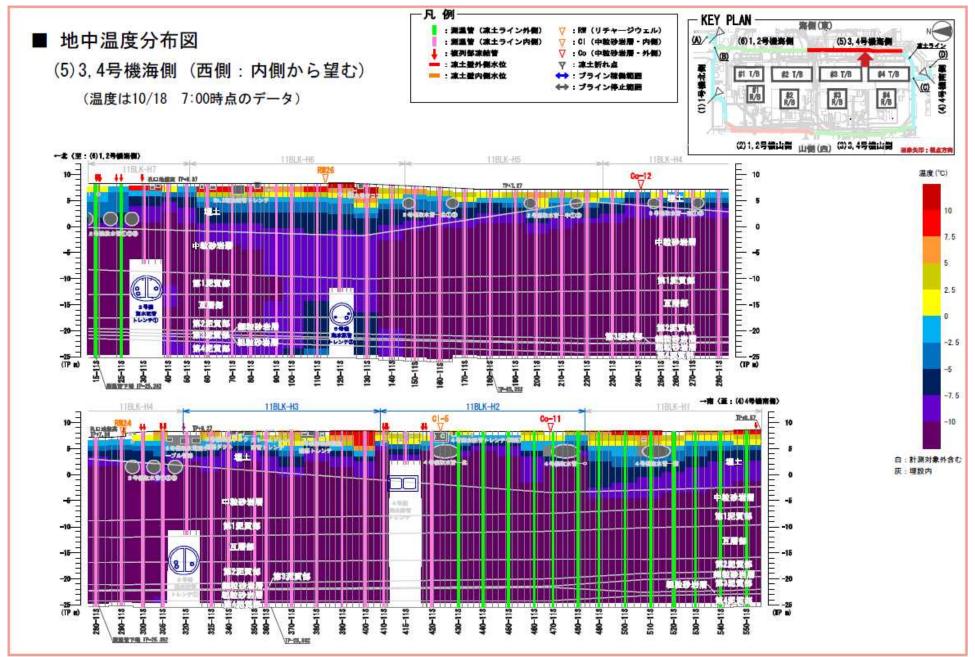
【参考】 1-4 地中温度分布図(4号機南側)





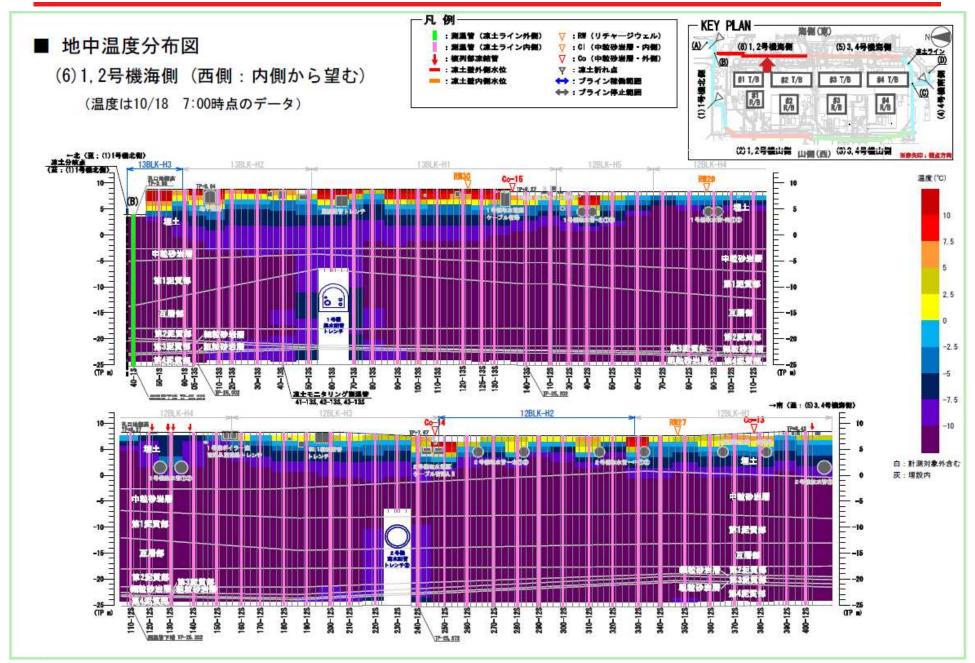
【参考】 1-5 地中温度分布図(3・4号機東側)





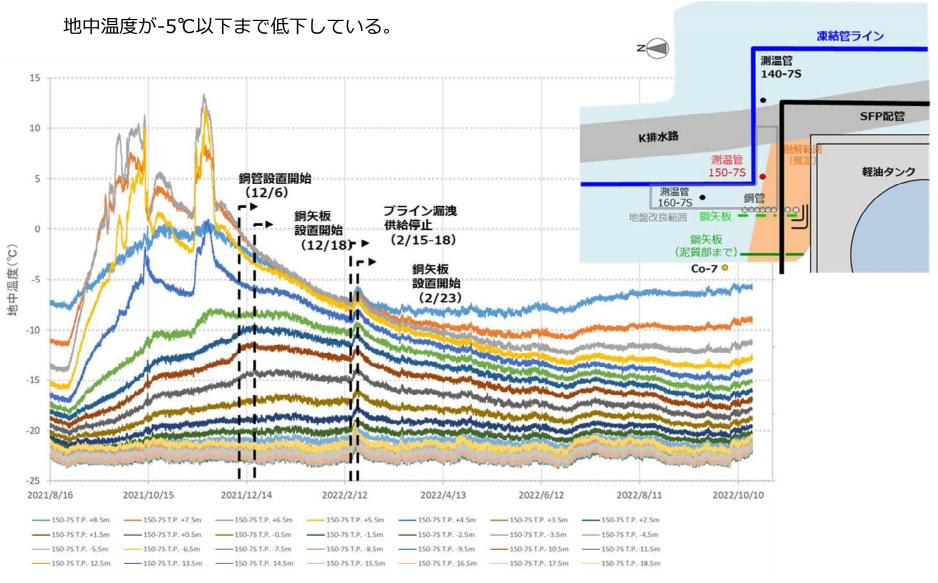
【参考】 1-6 地中温度分布図(1・2号機東側)







▶ 地中温度が0℃以上まで上昇が確認された表層部T.P.+8.5m~T.P.+4.5mについては、

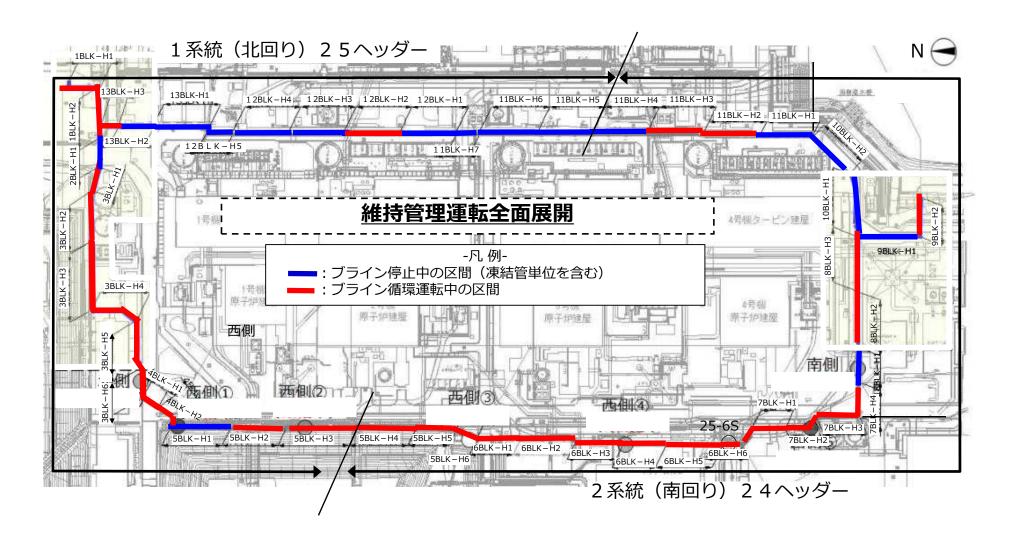


測温管150-7 S 経時変化(10/18 15:00時点)

【参考】1-8 維持管理運転の状況(10/18時点)

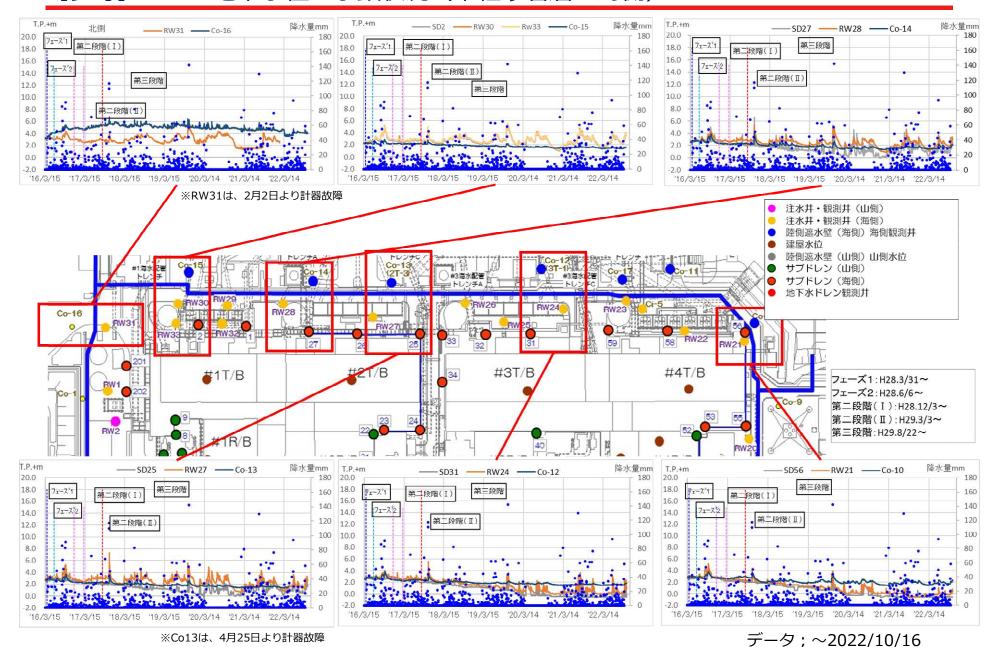


■ 維持管理運転対象全49ヘッダー管(北回り1系統25ヘッダー、南回り2系統24ヘッダー) のうち17ヘッダー管(北側1,東側12,南側3,西側1)にてブライン停止中。



【参考】 2-1 地下水位・水頭状況(中粒砂岩層 海側)

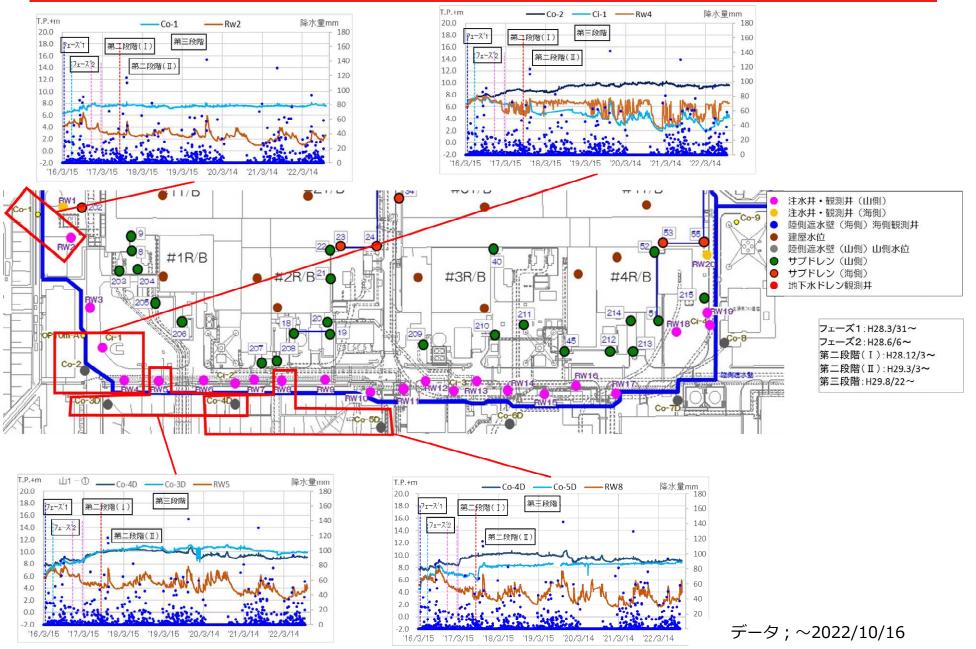




. .

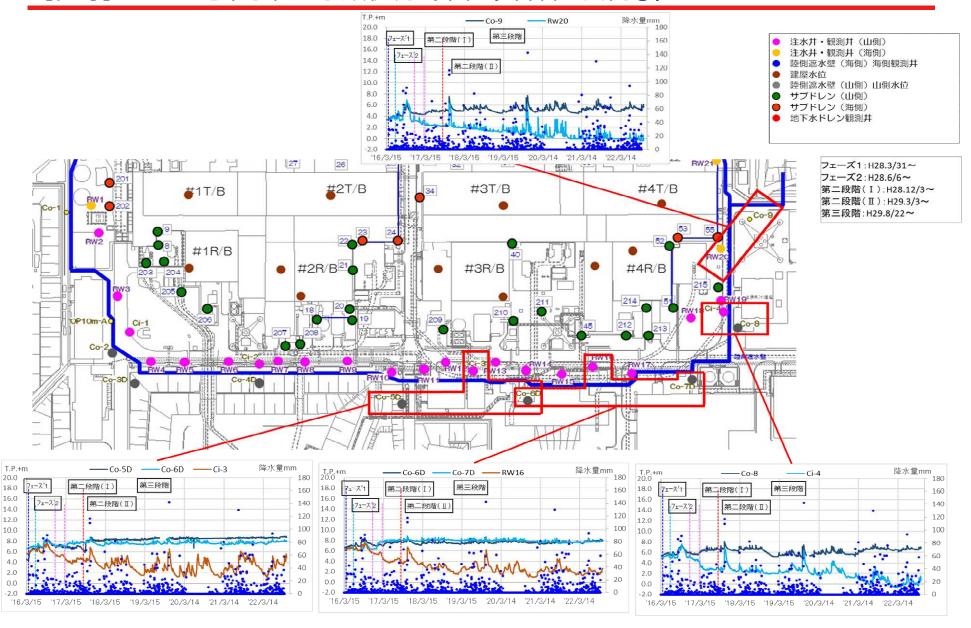
【参考】 2-2 地下水位・水頭状況(中粒砂岩層 山側①)





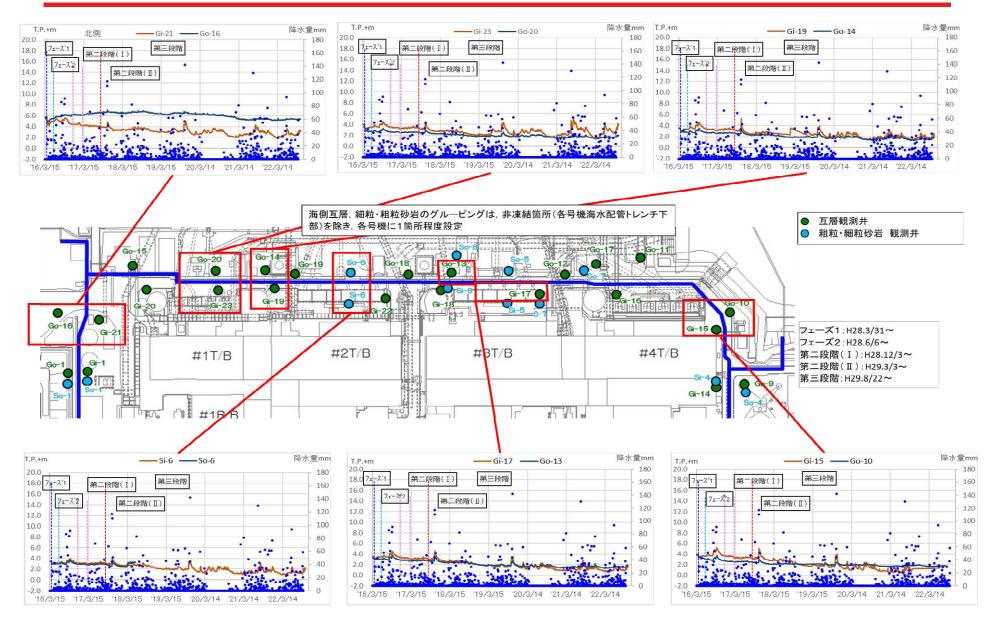
【参考】 2-3 地下水位・水頭状況(中粒砂岩層 山側②)





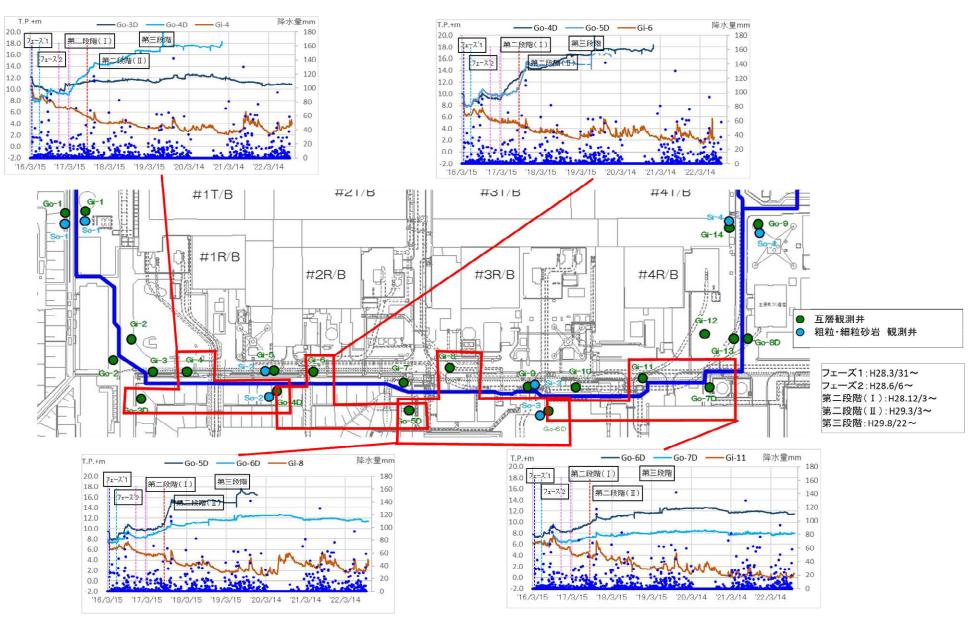
データ;~2022/10/16

【参考】 2-4 地下水位・水頭状況(互層、細粒・粗粒砂岩層水頭 海側)**T=PCO**



データ;~2022/10/16

【参考】 2-5 地下水位・水頭状況(互層、細粒・粗粒砂岩層水頭 山側**デミアCO**



データ;~2022/10/16

【参考】サブドレン・注水井・地下水位観測井位置図



